

# 数理ウェーブ



**日時:**平成31年3月23日(土) 13:30開場

**場所:**名古屋大学 多元数理科学棟 509号室

**【講演1】14:00～15:00**-----

森 翔汰(名古屋大学大学院多元数理科学研究科 修士課程)

## 「破産問題の一例」

概要:あなたと友人が勝敗のつくゲーム(オセロやチェスなど)で賭け事をしている場面を想像してください。毎回同額のお金を賭け、どちらかの所持金が底をつく(破産する)まで同じゲームを繰り返します。あなたは白黒つけたい性格のため、最後まで賭けを行いたいのですが、最終便の時間も気になります。そこで、いつまでに(多分)終わられるかを計算することにしました。以上の内容を、歴史的な問題「破産問題」と絡めながら、数学的に議論します。

**【講演2】15:10～16:10**-----

奥田真吾(三重県立津高等学校 講師)

## 「畳の敷き方」

概要:広さ $m \times n$ の長方形の部屋に $k$ 畳半の畳を敷き詰めるとき、その敷き詰め方の総数を考えます。ただし畳の広さは、 $1 \times 2$ または $2 \times 1$ を1畳、 $1 \times 1$ を半畳とします。半畳を考えない問題、すなわち $m, n$ の少なくとも一方が偶数のときについては統計物理と関係があり、既に解決されています。一方 $m$ と $n$ が両方奇数のときには、必ず半畳を考えざるを得なくなります。半畳の畳を1枚だけ使用する条件では、果たしてどのように考えればいいのでしょうか。本年度の日本数学コンクールで出題したこの問題を、 $3 \times 3$ 、 $3 \times 5$ 、 $3 \times n$ 、 $5 \times 5$ 等について解説します。

**参加無料・事前登録不要**

—お問い合わせ—

名古屋大学

研究協力部社会連携課

TEL 052-747-6484

